BUTTERFLY

公共部門

その申請は今、誰のところで止まっているか？

公共機関では、申請が異なる窓口で進み、知識が個人に依存すると、業務の継続が難しくなります。Butterflyは、申請、連携、レポーティングのプロセスを、閉域網で組織内に稼働する一つの層にまとめます。

ローカルモデル
データは組織外に出ない

監査記録
誰が、いつ、何をしたか

セルフサービスのレポート
各部署が自らレポートを取得



課題

貴社が直面している課題

01 申請が**異なる窓口で**進み、誰のところで止まっているか見えない。

02 アプリケーションが**互いに切り離されて**動き、新たなニーズごとに別プロジェクトが必要になる。

03 アプリを開発した担当者が去ると、**知識も一緒に失われる。**

解決策

Butterflyでどう解決するか

Butterflyは、定義されたワークフロー、権限、記録によってプロセスを管理します。プラットフォームは閉域網の1台の仮想サーバーで稼働でき、AIは定義されたステップでのみ、ローカルモデルを使い、権限チェックを経て動作します。アプリケーションは読みやすくバージョン管理可能な定義としてプラットフォーム上に保持されます。

- ✓ **申請管理：分類、承認、追跡**
- ✓ **APIとWebサービスによる連携**
- ✓ **既存システムの上での自動化**
- ✓ **決定論的なワークフローエンジン**

成果

Butterflyで何が変わるか

見える申請
誰のところにあるかが明確

守られる知識
新任者が途中から引き継げる

統制されたAI
定義されたステップでのみ動作

このページは特定業界の顧客事例ではなく、この業界におけるButterflyプラットフォームの機能を紹介するものです。

同様のプロセスがありますか？

30分のミーティングで一緒に検討しましょう。

QRコードを読み取って、ミーティングをお申し込みください。

ミーティング申込